

育成

モノづくり人材
Vol. 11

大阪府立だいせん聴覚高等支援学校

大阪府立だいせん聴覚高等支援学校は本科内に普通科のほか、専門技術を学ぶ工業テク



和泉校長

ノロジー科、情報コミュニケーション科、ライフ・サポート科の職業3科を置く。さらに短期大学に相当する同3科の専攻科も設置し

職業3科、進路拡大に意欲

ており、より専門性の高い人材の育成も担っている。同校は2006年に工業系の府立生野高等

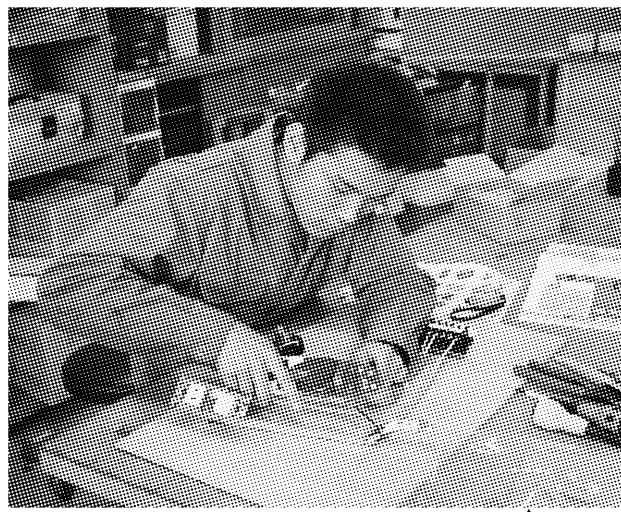
同校では就職に必要な技能資格の取得が活発だ。本科卒業後、就職する生徒もいるが、職業3科は専攻科を含めた5年制のカリキュラムを意識して長期的

「就職率100%は当たり前」と和泉秀雄校長は言い切る。ただ「新規の就職先開拓は難しい」と和泉

「20年前に比べれば、聴覚障害者への理解は進んできたが、企業現場にはまだまだ浸透していない」と

【DATA】▷校長=和泉秀雄氏▷所在地=堺市堺区▷学科構成=普通科、工業テクノロジー科、情報コミュニケーション科、ライフ・サポート科▷生徒数=本科56人、専攻科22人▷主な実習設備=NC旋盤、NCフライス、ガス/アーク溶接機など▷主な進路先=トヨタ自動車、住友電気工業、村田製作所など

視点で資格取得を促している。さらにインターネットの映像通話を利用した米国の習得や、筑波技術大学との高大連携などを



電気工士の資格取得のための補習授業

このため同校は教師が卒業生の就職先を訪問するフォロー活動を積極的にしている。

採用企業で評価を聞き、コミュニケーション上の課題は解決策を提案する。こうしたフォローがうまく行き渡った企業では、手話サークルを発足するケースもあるという。「理解が進めば、就職先はもっと広がる」と和泉校長は力を込める。

(南大阪・森野学彦)
(金曜日掲載)